

I 「彼らはずいつも、使徒たちの教え（主が教えられた教え、みことば）を守り」。

19年間の当教会の土台＝

- ①教会の土台、柱は、主の御言葉。
- ②当教会は、主の御言葉で、19年間、成長してきた。個人個人が読み味わう御言葉には、力、命がある。  
「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことば（霊）の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」Iペテロ2：2。
- ③牧会者が祈りつつ学び、準備する説教、教会員が説教者の準備の為に祈る力が合体した礼拝説教は、教会の業としての結晶。その礼拝の説教、御言葉が教会を霊的に養い成長させる。  
私は、牧会41年間、生ける御言葉が、祈られた説教が、教会を成長させることを体験してきた。  
「みことばは、あなたがたを成長させ」使徒20：32。
- ④説教を聞いた後、互いに教えられた恵みを分かち合う時、真の教師である御聖霊が働かれ、お互いに、また、別の面を教えられ補い合う恵みが生まれる。

II 御言葉の順序が大切。

1. まず「使徒たちの教え（みことば）を守り」が先。そして、主を中心とした「交わり」が生まれる。  
主の御言葉が土台に無い交わりは、主が中心におられない人間的な交わりとなる。ある時は、悪口の交わりともなる。

彼らはずいつも「交わりを持ち」。

「交わり」の原語：交わり、共有、分け前にあずかる事、英語＝シェア、分かち合い。

動詞形：共有している、分け前に与かる、分かち合う。

私達も、いつも、

- ①先行する主の恵み、御言葉の恵み、感謝を互いに、分かち合う交わりをしたい。それにより主の教会は霊的に成長する。
  - ②悩み、課題、問題も、分かち合い、共に聴き合い、語り合い、共に、その交わりの中におられる主に、心の重荷を降ろしたい。
2. 教会の主にある交わりが祝福されていると、初めて教会に来られた方が、続けて教会に来られ、救われる事が多い。それ故、教会の交わりは、主を証する力でもある。
  3. 主にある交わりをする為には、互いに知り合う交わりが必要。

特に、今年は4月から、牧会者夫婦が交代する。主を間に置いた新しい人間関係作りが必要。

多くの場合、新任の牧会者夫婦は、最初の1年は、個別に、無理の無いように、教会員の方々と交わる。

劉先生ご夫妻と教会員の一人一人と（クリスチャン夫婦は、夫婦単位で）個別に、主にある交わりをする1年となりますように。

その方法＝

- ①いきなり「交わりをしましょう」と言っても、難しい。

まず、牧会者のほうから、「救いの証し聞かせていただけますか？どのように、リトウズに導かれたのですか？」とお尋ねすると、御聖霊が働かれ、良い交わりが始まる。

神が、その方の人生に、どのように働かれ救いに導かれたかを聴けることは、牧会者にとり喜び、励まし、祝福である。

牧会者は、説教では、教える側だが、講壇から降りたら、皆さんから学ぶ態度で牧会すると祝福される。

後は神が導かれるままに交わりをし、感謝と課題を出し合って終わる。時間的に負担にならないように。

## ②場所は？

人それぞれ。会堂でOK。礼拝後の一室で。

ある方が、牧会者ご夫妻に「我が家に、おい出で下さい」と招かれれば、ご家庭でもOK。

あくまで、自主的なもの、負担にならないように心掛ける。

## ③牧会者は、前もって、一人一人に尋ね、都合の良い日を決める、計画を立てる。

各教会の人数に寄り、「交わり」の期間は変わる。

## ④この交わりは、「これからも宜しく願います」という意味の交わりである。

## ⑤この交わりが、1度、終わったから、もう交わりは終了したというものではない。

最初の交わりにより、その後も、深く交わり易くなる。何時でも、相談し、祈り合うことが出来る。

牧会者夫婦も祈って頂く交わり。

## Ⅲ 「パンを裂き」。

聖餐式を大切に作る教会。

聖餐式とは、「自分自身を吟味し」(Iコリント11:28)、心の中で、神が示して下さる罪を告白し、主の十字架の恵みにより、完全な赦しを得る時間。そして、その数えきれない私達の罪の為に主が十字架で死なれ血を流し、私達の罪を完全に贖われた、償われた恵みを深く覚え感謝する時。

「わたし(私達の罪の為に十字架にかけられたキリスト)を覚えて、これを行いなさい」(11:24, 25)。

また、聖餐式は、主の死の意味を伝える伝道の時でもある＝

「あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られる(世の終わりの再臨)まで主の死を告げ知らせるのです」(11:26)。

## Ⅳ 彼らはいつも「祈りをしていた」。

いつも神に祈る教会。

当教会は、祈りを大切に作る教会。

「祈りのしおり」を用いての祈り合い(祈りのしおりの感謝の報告の欄を見る時、皆さんが良く祈られ、神が、祈りに答えられている事を覚え、感謝が溢れる！)、

「みことばを分かち合い祈り合うグループ」での祈り合い、

月の第4週の礼拝2部で、最後に、二人か、三人で、感謝と課題を出しての祈り合い、

執事会の最後に、二人か三人で、感謝と課題を出しての祈り合い、

礼拝の中での「牧会の祈り」、

礼拝後の報告で、祈りの課題の報告がある時、牧会者が代表して、心を一つにして祈る祈り、

大きな課題がある方に、ある人が優しく寄り添い、祈る祈り、他。

## Ⅴ 教会を霊的に建て上げる事と主を伝える伝道のバランスのある教会。

1. 「キリストご自身が…ある人たちを牧師また教師(伝道師も含む)としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです」エペソ4:11, 12

2. 「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音(キリストによる救いの良き知らせ)を宣べ伝えなさい」  
マルコ16:15。

※関係作り伝道、参加型伝道。礼拝につながる伝道の祝福。

※私が、41年間、体験してきているみことば＝

「すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに至る実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜びのためです。ですから、『一人が種を蒔き、ほかの者が刈り入れる』というみことばはまことです」

ヨハネ4:36, 37